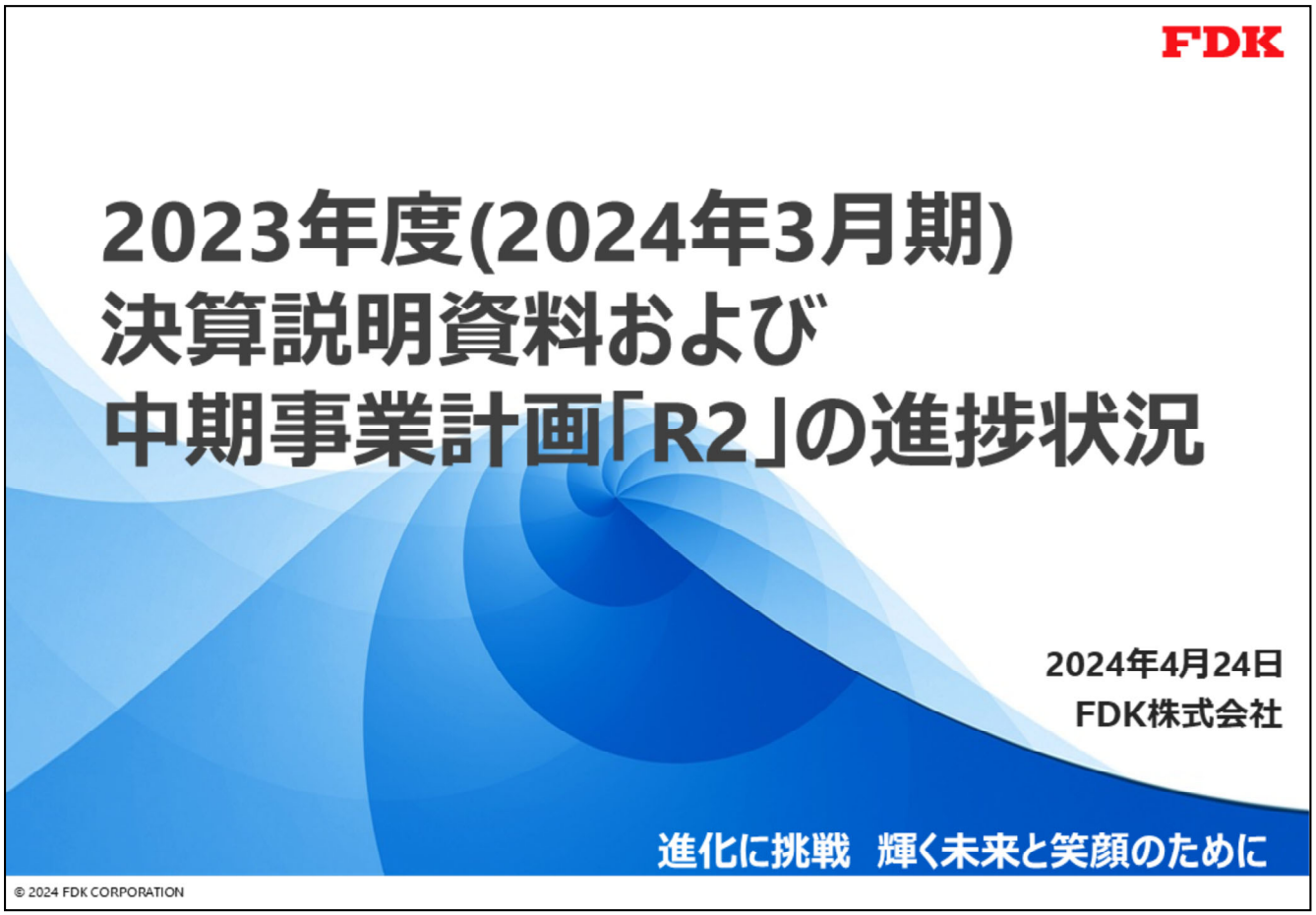


2023年度決算概要および中期事業計画「R2」の進捗について、ご説明いたします。

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

目次

FDK

1. 2023年度の業績
連結決算のポイント ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2023年度連結決算概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
営業利益変動要因(前年度比) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
連結貸借対照表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
セグメント別情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
2. 2024年度(通期)見通し ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
3. 参考資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
4. 中期事業計画「R2」の進捗状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
5. トピックス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

© 2024 FDK CORPORATION

今回ご説明させていただく内容です。

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

連結決算のポイント

FDK

■ 連結全体

売上高：626.7億円（前年度比：△1.0億円、△0.2%）

電池事業ですべての製品が増収も電子事業の各種モジュールの売上減により減収

営業利益：5.6億円（前年度比：△2.2億円、△28.0%）

売上減や原材料価格高騰の影響を経費削減や販売価格の見直しで補いきれず減益

経常利益：7.2億円（前年度比：△1.3億円、△15.5%）

為替差益を計上したものの、営業利益の減少により減益

当期純利益：1.2億円（前年度比：△1.9億円、△62.1%）

負ののれん発生益を計上しましたが、減損損失の計上により減益

■ セグメント別

電池事業：売上高 前年度比：+55.6億円、+13.2%

・リチウム電池は国内外のセキュリティ・スマートメータ用途向けが堅調で、円安効果も加わり増収

・ニッケル水素電池は海外の市販・車載用途向けが増加や円安効果も加わり増収

・設備関連ビジネスは自動車関連設備が堅調で増収

電子事業：売上高 前年度比：△56.7億円、△27.5%

各種モジュールや2022年度に実施したコイルデバイスの事業譲渡などにより減収

© 2024 FDK CORPORATION

※0.1億円未満切り捨て

はじめに、決算のポイントです。

■連結全体の売上高は電池事業ですべての製品が増収も電子事業の各種モジュールの売上減により、前年度比0.2減の626.7億円となりました。

連結全体の営業利益は売上減や原材料価格高騰の影響を経費削減や販売価格の見直しで補いきれず、前年度比28.0%減の5.6億円となりました。

連結全体の経常利益は為替差益を計上したものの、営業利益の減少により、前年度比15.5%減の7.2億円となりました。

連結全体の当期純利益は負ののれん発生益を計上しましたが、減損損失の計上により、前年度比62.1%減の1.2億円となりました。

■セグメント別では電池事業はリチウム電池が国内外のセキュリティ・スマートメータ用途向けが堅調で、円安効果も加わり増収、ニッケル水素電池が海外の市販・車載用途向けや円安効果も加わり増収、設備関連ビジネスが自動車関連設備が堅調で、セグメント全体で前年度比13.2%増となりました。

電子事業は各種モジュールや2022年度に実施したコイルデバイスの事業譲渡などにより、セグメント全体で前年度比27.5%減となりました。

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

2023年度連結決算概要

FDK

(単位：億円)

	2022年度	2023年度	前年度比	
				増減率
売上高	627.8	626.7	△1.0	△0.2%
営業利益 (営業利益率)	7.8 (1.3%)	5.6 (0.9%)	△2.2 (△0.4pt)	△28.0%
経常利益 (経常利益率)	8.5 (1.4%)	7.2 (1.1%)	△1.3 (△0.3pt)	△15.5%
当期純利益※ (純利益率)	3.1 (0.5%)	1.2 (0.2%)	△1.9 (△0.3pt)	△62.1%

※親会社株主に帰属する当期純利益

1株当たり当期純利益	9.22円	3.50円	△5.72円

為替レート	(円/1USD)	135.07円	143.82円	+8.75円
	(円/1EUR)	140.84円	156.24円	+15.4円

© 2024 FDK CORPORATION

※0.1億円未満切り捨て

次に、連結決算概要です。

■電池事業の売上高はリチウム電池が国内外のセキュリティ・スマートメータ用途向けで増加やニッケル水素電池が海外の市販・車載用途向けで増加、さらに設備関連ビジネスが増加したことから、事業全体として増収となりました。電子事業の売上高はスイッチング電源が増加しましたが、モビリティ・タブレット用途向け各種モジュールが減少したことや前年度に実施したコイルデバイスの事業譲渡などによる売上減により、事業全体として減収となりました。

この結果、売上高は前年度に比べ1億円（△0.2%）減の626.7億円となりました。

■電池事業は原材料価格高騰による利益減があったものの、経費削減、販売価格の見直しや円安効果も加わり黒字化しました。電子事業は売上減による影響が大きく減益となりました。

この結果、営業利益は前年度に比べ2.2億円減少の5.6億円となりました。

■経常利益は1.1億円の為替差益を営業外収益として計上したものの、前年度に比べ1.3億円減少の7.2億円となりました。

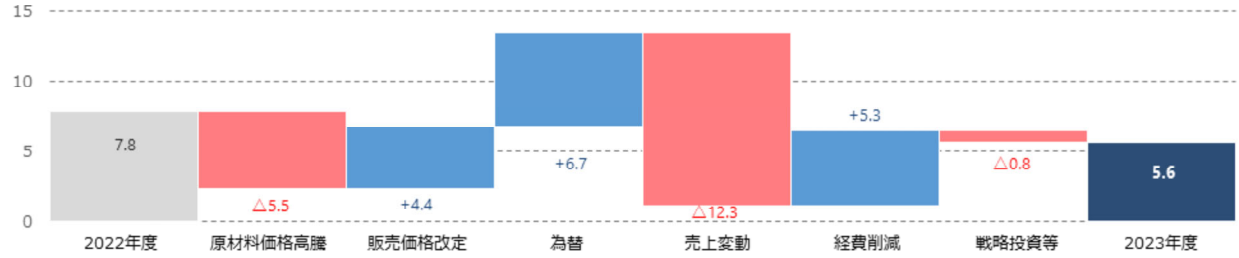
■当期純利益は包頭三徳電池材料有限公司の出資持分取得に伴なう負ののれん発生益として5.1億円の特別利益を計上したものの、SMD対応小型全固体電池とアルカリ乾電池に関わる固定資産の減損損失7.1億円の計上により、前年度に比べ1.9億円減少の1.2億円となりました。

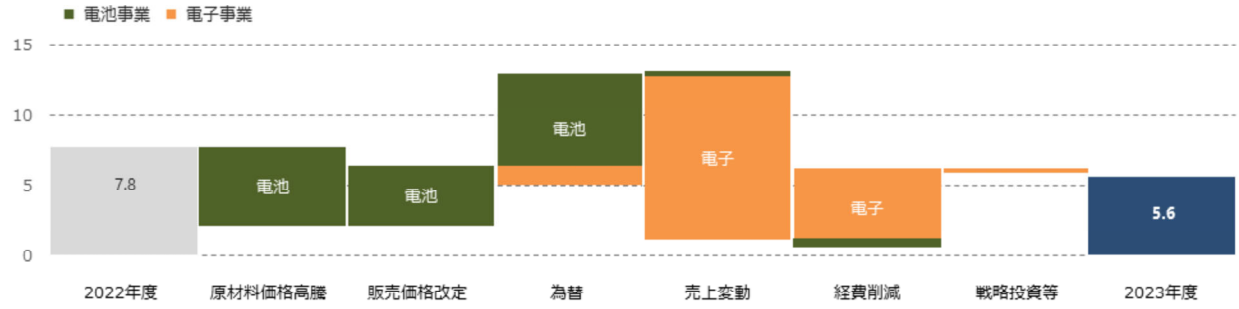
Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

営業利益変動要因(前年度比)

FDK

(単位：億円)	2022年度	2023年度	前年度比	
				増減率
営業利益(営業利益率)	7.8(1.3%)	5.6(0.9%)	△2.2(△0.4pt)	△28.0%





© 2024 FDK CORPORATION

※0.1億円未満切り捨て

次に、営業利益の変動要因です。

■全体の営業利益は原材料価格高騰による減益影響がありましたが、販売価格改定により抑制しました。また、為替も好転影響がありました。

電子事業の各種モジュールの売上変動影響がありましたが、経費削減等で抑制しました。

しかしながら、すべての減益影響を抑制することができず、前年度に比べ2.2億円減益の5.6億円となりました。

■それぞれの要因が各事業に与えた影響としましては、電池事業では原材料価格高騰が減益要因で、販売価格改定や為替が好転要因となりました。電子事業では経費削減による好転要因がありましたが、売上変動が大きな減益要因となりました。

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

連結貸借対照表

FDK

(単位：億円)

科 目	2022年度	2023年度	増減	科 目	2022年度	2023年度	増減
流動資産	318.2	365.9	+47.7	**流動負債**	309.2	342.1	+32.9
(受取手形及び売掛金)	(162.2)	(191.7)	+29.4	(支払手形及び買掛金)	(97.5)	(108.7)	+11.2
(商品及び商品)	(29.6)	(28.5)	△1.0	(短期借入金)	(121.4)	(144.7)	+23.3
(仕掛品)	(31.1)	(34.3)	+3.1				
(原材料及び貯蔵品)	(48.4)	(55.9)	+7.5				
(その他流動資産)	(21.3)	(18.6)	△2.6				
固定資産	153.0	149.6	△3.4	**固定負債**	30.0	16.9	△13.1
(有形固定資産)	(144.7)	(141.5)	△3.1	(退職給付に係る負債)	(19.8)	(7.1)	△12.6
				負債合計	**339.3**	**359.1**	**+19.7**
				株主資本	127.6	128.8	+1.2
				(利益剰余金)	(△451.1)	(△449.9)	+1.2
				その他の包括利益累計額	4.2	26.5	+22.3
				(為替換算調整勘定)	(18.2)	(27.5)	+9.3
				(退職給付に係る調整累計額)	(△14.3)	(△1.6)	+12.7
				純資産合計	**131.9**	**156.4**	**+24.4**
資産合計	**471.3**	**515.5**	**+44.2**	**負債純資産合計**	**471.3**	**515.5**	**+44.2**

自己資本比率	28.0%	30.1%	+2.1pt	有利子負債残高	122.2	145.5	+23.3
ROIC※	0.8%	0.1%	△0.7pt				

※ROIC＝税引後営業利益/(自己資本＋有利子負債)

© 2024 FDK CORPORATION

※0.1億円未満切り捨て

次に、連結貸借対照表です。

■流動資産は前年度に比べ47.7億円増加の365.9億円となりました。流動資産増加の主な要因は、未収入金などのその他流動資産が減少した一方、受取手形及び売掛金の増加や仕掛品、原材料及び貯蔵品などの棚卸資産が増加（うち、包頭富士電気化学有限公司連結子会社化による増6.1億円）したことによるものです。

■固定資産は前年度に比べ3.4億円減少の149.6億円となりました。固定資産減少の主な要因は、SMD対応小型全固体電池などにかかわる固定資産の減損により、有形固定資産が3.1億円減少したことによるものです。

■流動負債は前年度に比べ32.9億円増加の342.1億円となりました。流動負債増加の主な要因は、短期借入金の増加（うち、包頭富士電気化学有限公司連結子会社化による増12.4億円）や支払手形及び買掛金が増加したことによるものです。

■固定負債は前年度に比べ13.1億円減少の16.9億円となりました。固定負債減少の主な要因は、退職給付債務に係る負債が12.6億円減少したことによるものです。

■純資産合計は前年度に比べ24.4億円増加の156.4億円となりました。純資産増加の主な要因は、親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が1.2億円、退職給付に係る調整累計額が12.7億円、為替換算調整勘定が9.3億円それぞれ増加したことによるものです。

■有利子負債残高は主に借入金の増加により前年度に比べ23.3億円増加の145.5億円となりました。

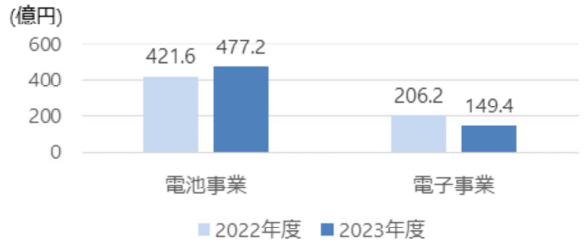
■ROICは前年度に比べ0.7pt減の0.1%となりました。

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

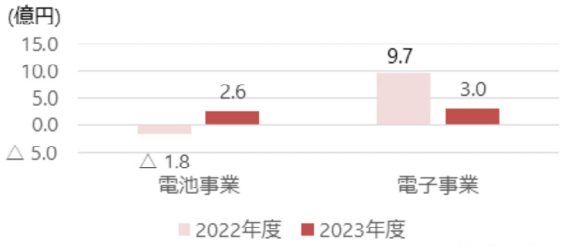
セグメント別情報

FDK

売上高



営業利益



(単位：億円)

		2022年度	2023年度	前年度比	
					増減率
電池事業	売上高	421.6	477.2	+55.6	+13.2%
	セグメント利益 (率)	△1.8 (△0.4%)	2.6 (0.6%)	+4.4 (+1.0pt)	-%
電子事業	売上高	206.2	149.4	△56.7	△27.5%
	セグメント利益 (率)	9.7 (4.7%)	3.0 (2.1%)	△6.6 (△2.6pt)	△68.5%
合計	売上高	627.8	626.7	△1.0	△0.2%
	営業利益 (率)	7.8 (1.3%)	5.6 (0.9%)	△2.2 (△0.4pt)	△28.0%

© 2024 FDK CORPORATION

※0.1億円未満切り捨て

次に、セグメント別の情報です。

■電池事業の売上高はリチウム電池が国内外のセキュリティ・スマートメータ用途向けで増加やニッケル水素電池が海外の市販・車載用途向けで増加、さらに設備関連ビジネスが増加したことから、前年度に比べ55.6億円増加の477.2億円、セグメント利益は原材料価格高騰による利益減があったものの、経費削減、販売価格の見直しや円安効果も加わり黒字化しました。

■電子事業の売上高はスイッチング電源が増加しましたが、各種モジュールが減少したことや前連結会計年度に実施したコイルデバイスの事業譲渡などにより、前年度に比べ56.7億円減少の149.4億円、セグメント利益は経費削減による利益増があったものの、売上減により前年度に比べ6.6億円減少の3億円となりました。

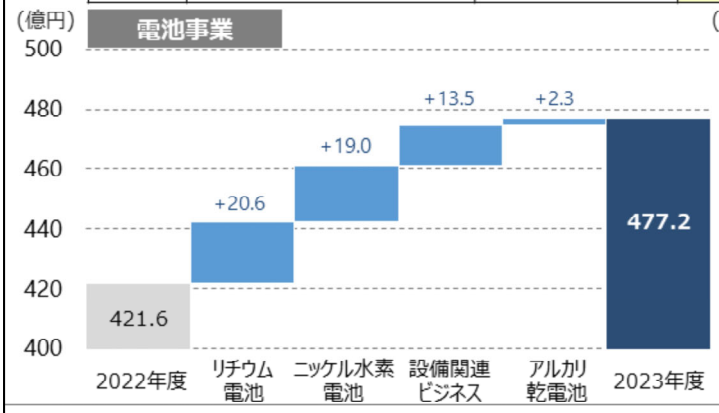
Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

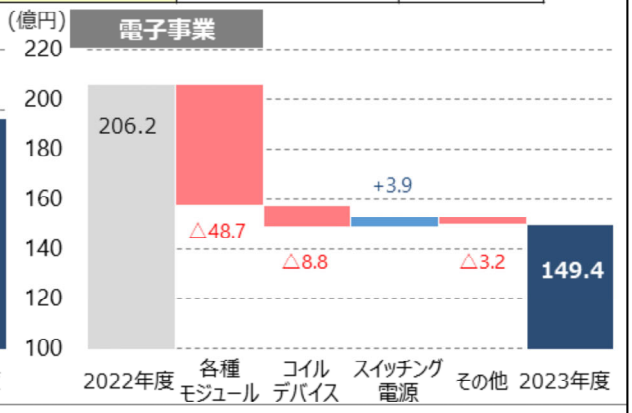
セグメント別情報(売上概況)

FDK

(単位：億円)

		2022年度	2023年度	前年度比	増減率
電池事業	売上高	421.6	477.2	+55.6	+13.2%
	セグメント利益(率)	△1.8(△0.4%)	2.6(0.6%)	+4.4(+1.0pt)	-%
電子事業	売上高	206.2	149.4	△56.7	△27.5%
	セグメント利益(率)	9.7(4.7%)	3.0(2.1%)	△6.6(△2.6pt)	△68.5%
合計	売上高	627.8	626.7	△1.0	△0.2%
	営業利益(率)	7.8(1.3%)	5.6(0.9%)	△2.2(△0.4pt)	△28.0%





© 2024 FDK CORPORATION

※0.1億円未満切り捨て

次に、セグメント別の売上概況です。

■リチウム電池は、国内外のセキュリティ・スマートメータ用途向けが堅調に推移したことや円安効果も加わったことにより、前年度を上回りました。

■ニッケル水素電池は海外の市販・車載用途向けが増加したことや円安効果も加わったことにより、前年度を上回りました。

■設備関連ビジネスは、自動車関連設備が増加したことにより、前年度を上回りました。

■アルカリ乾電池は、前年度を上回りました。

続いて、電子事業については、

■各種モジュールはモビリティ・タブレット用途向けが減少したことにより、前年度を下回りました。

■スイッチング電源は半導体装置用途向けが堅調に推移し、前年度を上回りました。

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

2024年度(通期)見通し

FDK

(単位：億円)

	2023年度 (実績)	2024年度 (予想)	前年度比	
				増減率
売上高	626.7	630.0	+3.2	+0.5%
営業利益 (営業利益率)	5.6 (0.9%)	10.0 (1.6%)	+4.3 (+0.7pt)	+75.6%
経常利益 (経常利益率)	7.2 (1.1%)	8.0 (1.3%)	+0.7 (+0.2pt)	+11.1%
当期純利益※ (当期純利益率)	1.2 (0.2%)	2.0 (0.3%)	+0.7 (+0.1pt)	+65.7%

※親会社株主に帰属する当期純利益

1株当たり当期純利益	3.50円	5.80円	+2.30円

為替レート (円/1USD)	143.82円	140.00円	△3.82円
(円/1EUR)	156.24円	150.00円	△6.24円

© 2024 FDK CORPORATION

※0.1億円未満切り捨て

次に、2024年度の見通しです。

■売上高は、630億円で3.2億円の増収。

■営業利益は、10億円、純利益は2億円の見通しです。

■為替レートは、1USドル、140円、1ユーロ、150円を想定しております。

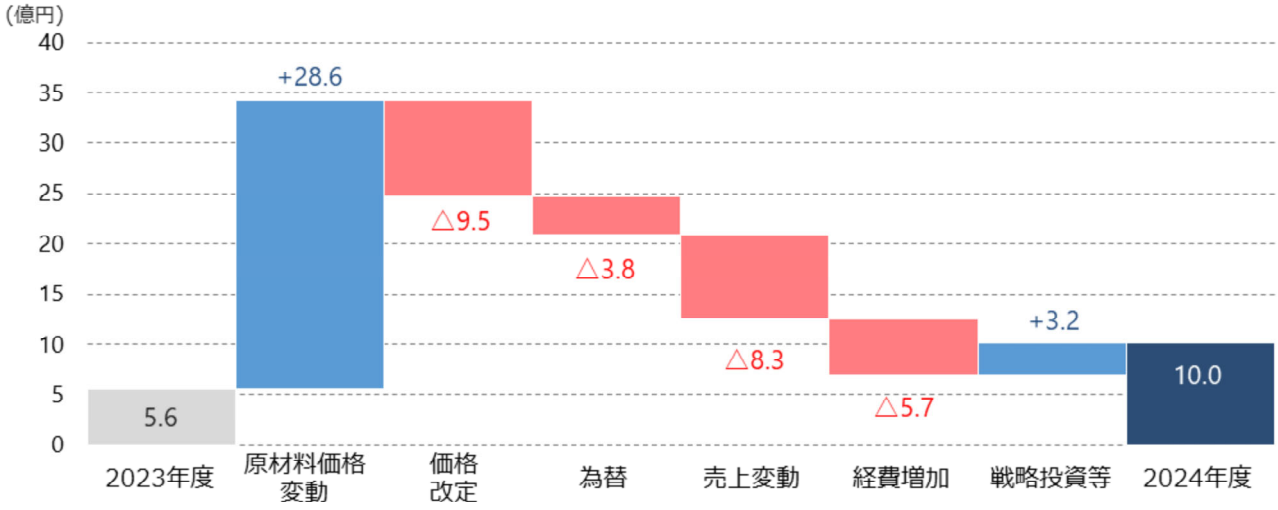
Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

営業利益変動要因(前年度比)

FDK

(単位：億円)

	2023年度	2024年度	前年度比	
				増減率
営業利益 (営業利益率)	5.6 (0.9%)	10.0 (1.6%)	+4.3 (+0.7pt)	+75.6%



© 2024 FDK CORPORATION

※0.1億円未満切り捨て

■2024年度も原材料価格の高止まり、電子部品や樹脂部品の調達難、労務費の上昇など厳しい事業環境が継続する見込みでありますが、これらの課題に対して当社グループは、レジリエンスの強化と価格の見直しや新規ビジネスの獲得、深耕開拓に取り組んでまいります。

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

参考資料

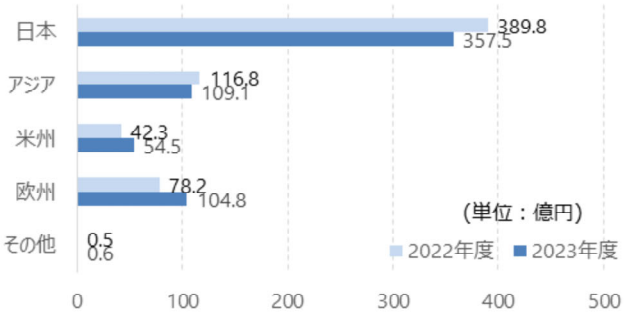
© 2024 FDK CORPORATION

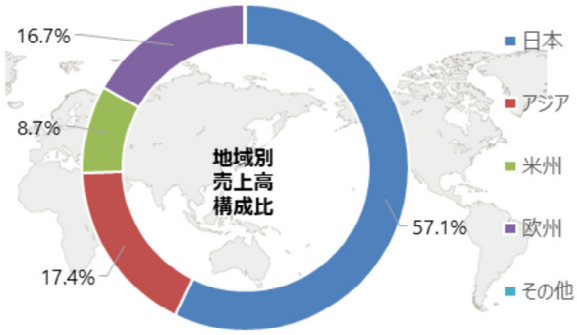
Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

地域別売上高

FDK

(単位：億円)	2022年度		2023年度		前年同期比	
						増減率
日本	389.8	62.1%	357.5	57.1%	△32.2	△8.3%
アジア	116.8	18.6%	109.1	17.4%	△7.6	△6.6%
中国	71.5	11.4%	64.8	10.3%	△6.7	△9.4%
米州	42.3	6.7%	54.5	8.7%	+12.1	+28.7%
欧州	78.2	12.5%	104.8	16.7%	+26.5	+34.0%
その他	0.5	0.1%	0.6	0.1%	+0.1	+11.0%
合計	627.8	100%	626.7	100%	△1.0	△0.2%
海外売上高比率	37.9%		42.9%			





※「地域別売上高」は顧客の所在地別売上を示しています

© 2024 FDK CORPORATION

※0.1億円未満切り捨て

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

連結キャッシュ・フロー計算書

FDK

(単位：億円)	2022年度	2023年度	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	27.8	16.2	△11.6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△29.7	△25.3	+4.4
フリー・キャッシュ・フロー	△1.9	△9.1	△7.1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1.1	18.1	+19.3
現金及び現金同等物の期末残高	25.7	37.1	+11.4

設備投資	30.4	22.1	△8.3
減価償却費	22.9	24.0	+1.1

© 2024 FDK CORPORATION

※0.1億円未満切り捨て

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

中期事業計画「R2」の進捗状況

© 2024 FDK CORPORATION

ここからは、中期事業計画「R2」の進捗について、ご説明いたします。

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

10年の計：Vision／あるべき姿と 中期事業計画 R2(再掲)

FDK

1. Vision
FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します

2. あるべき姿(Visionが達成されたと言える状態)
誰に：人々の暮らしと社会を支える企業と個々のユーザーに
何を：クリーン且つ、安全な電気エネルギーを安定的に活用できるオファリングをお届けする
(電池/ものづくり, 次世代電池, パワーマネジメントソリューション)
いつ：2029年(10年後)
目標：売上800億円(うち新事業 30%)/ 営業利益率 7.5%

3. 19年度：10年の計の起点 "Year 0"として、構造改革/ 事業再編を進めた
4. R1（20-22年度）：既存ビジネス三事業の基盤強化、新ビジネス開発促進、新たな文化醸成

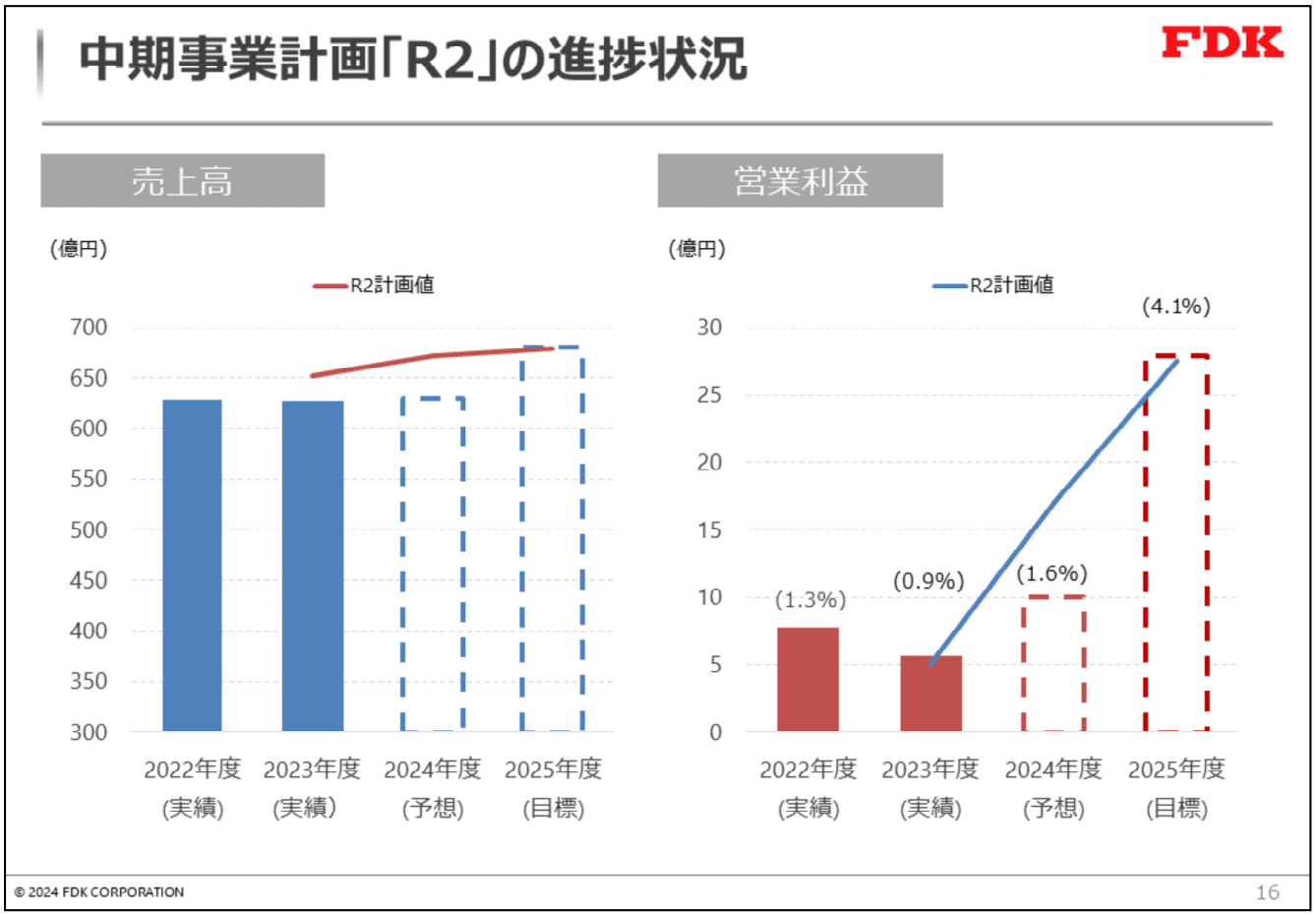
R2(23-25年度)では、R1より厳しい経営環境下で、
既存三大事業の強化により、事業のレジリエンスを高め、
新規ビジネスの始動により、R3以降への地固めを加速し、
自律的に高みを目指す文化の醸成により、経営の品質を高めてまいります

© 2024 FDK CORPORATION

次に、2023年4月にスタートした中期事業計画「R2」のVision、およびあるべき姿です。

■中期事業計画「R2」は、R1より厳しい経営環境下で、既存三大事業の強化により、事業のレジリエンスを高め、新規ビジネスの始動により、R3以降への地固めを加速し、自律的に高みを目指す文化の醸成により、経営の品質を高めてまいります。

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved



中期事業計画「R2」の進捗状況です。

■2023年度実績は、売上高626億円、営業利益5億円となりました。

　2024年度予想は、売上高630億円、営業利益10億円となり、これまでのところ「R2」の売上高を下回る進捗となっておりますが、最終年度である2025年度は、売上高680億円、営業利益率4.1%を目指します。

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

中期計画「R2」の三本柱の進捗状況

FDK

1) 主力ビジネスの利益ある成長を加速

製 品	テーマ	進捗状況
ニッケル水素電池	売上拡大、利益改善、高付加価値モデル占有率拡大、コスト競争力の強化	車載アクセサリ・電源バックアップ・社会インフラ市場向けで売上高の計画値から2023年度は下回っているが、順調に増加しており、最終年度の2025年度は計画値達成を見込む。損益面は高付加価値モデルの拡大や高価な材料の不使用化などにより利益改善を引き続き進める
リチウム電池	売上拡大、利益改善、メータ通信・産業・医療市場の拡大	高容量モデルの開発と量産に向けた取り組みを継続。工場内の再配置による生産性改善、自動化・DX/AIによる業務効率改善を引き続き進める。医療市場は新規受注を獲得。
電子事業/PMS	既存顧客の深耕、新規顧客開拓、全固体電池・パワーソリューションとの連携	既存顧客向け新モデルの継続受注、新規顧客向けの拡販活動に加えて、Bluetooth® Low Energyモジュールの拡販を進める。全固体電池・パワーソリューションのモジュール化における連携に引き続き取り組む *：Bluetooth®ワードマークは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する商標です
エンジニアリング	継続的な利益創出、設備構想力のさらなる向上	新規訪問顧客数増加に加えて、自動車関連向けのリピート受注により売上高が増加。丁寧な設備構想と仕様提案で価値を伝える活動を継続
アルカリ乾電池	売上拡大、利益改善	放電性能向上品の拡販、新規プライベートブランド乾電池供給開始で売上高が増加。材料コストダウンや自動化・仕様統一による原価低減活動を継続

2) 新規ビジネスの始動と開拓

製 品	テーマ	進捗状況
全固体電池	事業の始動、市場開拓、社内連携強化	量産開始に向けた評価サンプル出荷と顧客要求に応じた仕様確立に注力し一定の評価を得られた。汎用性の高い製品(充電特性向上、高容量化)の開発にリソースを集中する
ニッケル亜鉛	品質向上、仕様確立と量産開始	特定顧客へのサンプル出荷開始。自己放電と低温高出力放電性能で鉛電池以上であることや、連続充電評価試験において実用化レベルの耐久性を確保できていることを確認
パワーソリューション	特定プロジェクトの推進と要素技術開発	試作機のパフォーマンス評価/検証と要素技術のブラッシュアップ開発を継続 パートナーシップを構築しつつ試作・開発機をベースとした共同開発を推進

© 2024 FDK CORPORATION

ここでは、中期事業計画「R2」における事業別ポートフォリオの進捗状況につきご説明いたします。

まずは、主力ビジネスの利益ある成長を加速についてです。

■ニッケル水素電池は車載アクセサリ・電源バックアップ・社会インフラ市場向けで売上高の計画値から2023年度は下回っているが、順調に増加しており、最終年度の2025年度は計画値達成を見込んでおります。損益面は高付加価値モデルの拡大や高価な材料の不使用化などにより利益改善を引き続き進めます。

■リチウム電池は高容量モデルの開発と量産に向けた取り組みを継続。工場内の再配置による生産性改善、自動化・DX/AIによる業務効率改善を引き続き進めます。また、医療市場は新規受注を獲得しております。

■電子事業/PMSは既存顧客向け新モデルの継続受注、新規顧客向けの拡販活動に加えて、Bluetooth® Low Energyモジュールの拡販を進めます。全固体電池・パワーソリューションのモジュール化における連携に引き続き取り組んでまいります。

■エンジニアリング(設備関連ビジネス)は新規訪問顧客数増加に加えて、自動車関連向けのリピート受注により売上高が増加。丁寧な設備構想と仕様提案で価値を伝える活動を継続しています。

■アルカリ乾電池は放電性能向上品の拡販、新規プライベートブランド乾電池供給開始で売上高が増加。材料コストダウンや自動化・仕様統一による原価低減活動を継続しています。

次に、新規ビジネスの始動と開拓についてです。

■全固体電池は量産開始に向けた評価サンプル出荷と顧客要求に応じた仕様確立に注力し一定の評価を得られました。汎用性の高い製品(充電特性向上、高容量化)の開発にリソースを集中します。

■ニッケル亜鉛電池は特定顧客へのサンプル出荷開始。自己放電と低温高出力放電性能で鉛電池以上であることや、連続充電評価試験において実用化レベルの耐久性を確保できていることを確認しました。

■パワーソリューションは試作機のパフォーマンス評価/検証と要素技術のブラッシュアップ開発を継続。パートナーシップを構築しつつ試作・開発機をベースとした共同開発を推進しています。

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

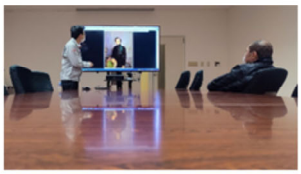
中期計画「R2」の三本柱の進捗状況

FDK

3）認め合い・高め合う文化の醸成

- 人的資本経営のKPI選定およびPDCAの構築、360度評価制度の基本骨子の策定開始、副業制度の設計完了、健康経営方針策定および推進体制を整備(健康経営優良法人2024に認定)、「道場」・e-Learningの充実、語学留学の継続、自己啓発カリキュラムの充実、通信教育、英会話の会社費用負担の拡大、サンクスポイントの浸透で褒め合う文化の醸成、カオナビ活用により認め合う文化の醸成の取り組みを継続
- 全社DXプロジェクトを開始し、最新のITツールやデジタル技術活用をベースに「ものづくり」「間接業務」「お客様との連携」を再設計し、スピード感を持った体制構築や新たなビジネスモデルを創出していく取り組む(DX認定を取得)

各「道場」の活動風景



やさしい経済教室

ExcelVBA x PowerAutomateDesktop

サッカー部

湖西テニスクラブ

© 2024 FDK CORPORATION

続いて、3つ目の認め合う・高め合う文化の醸成の進捗です。

■2023年度においては、人的資本経営のKPI選定およびPDCAの構築、360度評価制度の基本骨子の策定開始、副業制度の設計完了、健康経営方針策定および推進体制を整備(健康経営優良法人2024に認定)、「道場」・e-Learningの充実、語学留学の継続、自己啓発カリキュラムの充実、通信教育、英会話の会社費用負担の拡大、サンクスポイントの浸透で褒め合う文化の醸成、カオナビ活用により認め合う文化の醸成の取り組みを継続しました。また、全社DXプロジェクトを開始し、最新のITツールやデジタル技術活用をベースに「ものづくり」「間接業務」「お客様との連携」を再設計し、スピード感を持った体制構築や新たなビジネスモデルを創出していく取り組み、DX認定を取得しました。

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

トピックス

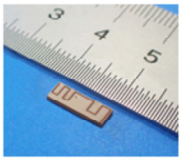
FDK

1) Bluetooth®(*1) Low Energyモジュールのサンプル出荷開始

株式会社東芝のSASP®(*2)技術を用いて開発したBluetooth® Low Energyモジュールに関する技術ライセンス契約を締結し、当社は2023年10月から国内の一部の顧客向けに、2024年3月から海外向けにサンプル出荷を開始

*1：Bluetooth®ワードマークは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する商標です

*2：SASP®ワードマークは、株式会社東芝が所有する登録商標です



2) ニッケル亜鉛電池の長期耐久性の向上を確認

ニッケル亜鉛電池の連続充電評価試験において、約1年経過後も安定した容量を維持し実用化レベルの耐久性を確保できていることを確認

3) 包頭富士電気化学有限公司(BAOTOU FDK CO., LTD.)を子会社化

当社は、株式会社三徳(兵庫県神戸市東灘区、以下「三徳」)の子会社であった包頭三徳電池材料有限公司(中華人民共和国内蒙古自治区包頭市)の三徳出資持分の全てを取得し、子会社化

4) 「DX認定」・「健康経営優良法人」の認定を取得

DX認定

2024 健康経営優良法人 Health and productivity

© 2024 FDK CORPORATION

最後に、トピックスです。

■当社は、株式会社東芝とBluetooth® Low Energyモジュールに関する技術ライセンスを締結し、同モジュールのサンプル出荷を開始しました。

■当社は、開発中のニッケル亜鉛電池の連続充電評価試験において、約1年経過後も安定した容量を維持し、実用化レベルの耐久性を確保できていることを確認しました。

■当社は、株式会社三徳の子会社であった包頭三徳電池材料有限公司の出資持分の全てを取得し子会社化しました。

■当社は、DX認定および健康経営優良法人の認定を取得しました。

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

また、本資料では、業績の概略として多くの数値は億円単位で表示しております。決算短信等で百万円単位で開示しております数値を切り捨て表示しているため、本資料に表示されてる合計額、差額などが不正確に見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信または有価証券報告書を参照していただきますようお願いいたします。

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved

FDK

確かな技術　育てる未来

Copyright 2024 FDK CORPORATION All right reserved